

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500171		
法人名	吉村商工 株式会社		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	宮崎県小林市南西方1992番地13		
自己評価作成日	令和7年1月5日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topijivosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和7年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業の理念を職員全体で理解し、入居者一人ひとりの気持ちに寄り添い、自分らしく、安心して穏やかな日常生活が送れるような支援を心掛けています。身体や精神面での些細な変化を見逃さないように、事業所の心得として目配り・気配り・心配りに取り組み、入居者との信頼関係を築いています。体調面での不安や急変時には協力医と連携を図りながら相談できる体制を整えており、月に一度の協力医による訪問診療も実施しています。年間行事やドライブでの外出などに参加していただき、季節の移り変わりを感じながら、日々の生活を楽しく過ごしていただけるように努めています。感染予防対策としては、毎日の環境整備、消毒、手洗い、マスク使用の声掛け、細目な換気などに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

企業の理念のもとホーム独自に「目配り・気配り・心配り」と「まごころ心得」を作成し、職員は基本理念、ホームの心得を実践している。ホーム内は天窓があり明るい雰囲気となっている。空気清浄機も取り入れ清潔に保たれている。食事は食材にもこだわり菜園で育てられた食材を使用し季節食を食するなど楽しみながらの一つとなっている。協力医、看護師との連携もできており安心して医療を受けられる体制作りも出来ている。地域との繋がりもあり運営推進会議では災害対策の協力体制作りの計画も立てられている。職員は基本理念、ホームの心得を実践し利用者は穏やかに過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業の理念には地域との連携の必要性が掲げてあり、基本方針を基に、入居者中心で穏やかな生活ができる居心地の良い施設を目指している。また、グループホーム独自の努力目標を掲げ全職員で理念を共有して実践につなげている。	企業理念、基本方針が掲げられグループホーム独自の「まごころ心得」を職員で話し合い作成している。理念、心得は施設内に掲示され、毎朝の朝礼で唱和し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内の散歩時に声を掛けて下さったり、近隣の方の花壇を見学させていただいたりして交流の機会を得られている。	コロナ禍でまだ地域のイベントなどでの交流は行われていない。敷地内の散歩にて近隣の方の庭を拝見させて頂くなど交流が行われている。地域の組長、区長との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の区長・民生委員・市職員・包括支援センター・警察署の方々に情報の提供を行い、認知症への理解と共感を促し、支援の協力体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の資料として入居者の方々の日常生活や、各行事での取り組み状況を写真添付し報告している。委員の方々の意見や感想を参考にして日常生活の向上に努めている。	運営推進会議には消防団部長や区長、警察の方などが参加されている。日常生活などの報告等を行い災害対策等の助言を頂くなどサービス向上に活かせる取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、市担当者や包括支援センター職員の方々との連携が出来ており、日常的にも連絡や相談など助言や支持を仰いでいる。	市の長寿介護課とは介護保険の更新時など日常的に相談が行われている。包括支援センターとも連携が図られ地域の福祉の状況や新規の情報など協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	なぜ、身体拘束がいけないのか・どのような行動が身体拘束になるのか・身体拘束の三原則を全職員がしっかりと理解していくために定期的な勉強会と研修を実施し、不適切な言葉づかいや介護にならないように日々確認しながらケアに取り組んでいる。	年4回の委員会を開催し研修会は年2回行われている。アンケートを実施しそれをもとに研修会を行っている。言葉遣いに気をつけ日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会と研修を実施し虐待への理解を深め、利用者の方々に不適切な言動や行動がないか、日々確認を行いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、権利擁護センターを利用されていた入居者の方がおられ、職員の方との関係性を深め権利擁護に関して学ぶことが出来た。今後も機会があれば活用支援に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な話し合いと説明を行い、家族や本人の不安や疑問及び意向等を確認しながら、理解・納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面接や電話での対応の際にご家族からの意見や要望などを気軽に言える関係性を整えて来ており、玄関ホールにはご意見箱を設置している。	面会について窓越しでの面会となっているため対面での面会が再開されれば連絡をとるの要望がある。歩行訓練や運動をして欲しいとの要望もあり利用者、家族の意見を反映させられるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて職員の意見や要望を聞く機会を設け、管理者から代表者へ内容の報告、相談を行い運営に反映できる様に取り組んでいる。	社長が物品購入の判断等を積極的に行われている。管理者は日常的に職員の意見を聞き上申している。社長、専務、管理者と関係性も築かれ職員の意見が反映できるよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を出しやすく相談しやすい環境を作り、職員同士がお互いに気配り心配りに心掛けて、無理のない、より良い職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には内外の研修情報を提供し、参加できる体制を確保している。入居者全員の情報共有を基本として、研修で得た内容を日々の支援に生かせるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの方が運営推進会議に参加されておられ、意見交換や情報を頂いている。他の施設とのつながりは、電話での情報交換等でネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容と共感を大切にし、本人が不安や要望を話しやすい環境と雰囲気作りに気を配り、傾聴する姿勢を整え、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や連絡時には日常の様子を報告し、不安や心配に思っている事、または要望等を話しやすい環境と関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れて頂くために、自宅での生活の様子を伺い、本人やご家族の要望を確認し関係機関との連携を行いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を自分のペースで続けていける様にサポートしながら、出来る喜びを共に感じあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしながら、本人の近況報告時にご家族の近況等も伺い、必要時には病院受診同行などの協力も得られており、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関ホール内での面会が出来る様になり、入居者の表情が和らんでいる。紫陽花やひまわり見学、馴染みの場所や自宅近隣に出かけたりして気分転換に努めている。	地域の行事や祭りの動画を見て話題作りを行っている。地域の桜まつり、観光地巡りなどを行い自宅近くまでドライブにも行き関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、年齢とともに会話が少なくなり、関わりも希薄になってきており、日常の様子を把握しながら職員も話題を提供したり、一緒にレクリエーションに参加したりして、入居者同士の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族の方への近況報告を通して、必要時にはいつでも連絡していただけるよう関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日常生活を観察しながら、会話や行動、表情を把握し傾聴しながら、その人らしく希望に添った暮らし方が出来る様に検討している。	普段の言動や表情から思いや意向を把握している。家に帰りたい利用者や家族の差し入れの意向にも配慮しその人らしくなれるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者からの情報を元に、これまでの生活スタイルに近い環境づくりを全職員で共有し支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康観察や活動状況、身体リズム等を全職員で記録し確認することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員が一つとなり、意見や要望を共有し、話し合いながら定期的に評価を行い、本人、家族の要望に沿った介護計画が作成出来る様に取り組んでいる。	毎月モニタリングは行っている。見直しは6ヶ月ごとに行い新規は3ヶ月ほどで行っている。変化が生じた場合はその都度見直しを行い現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践での気づきなどを個別記録に記入し、バイタル・食事・水分摂取量なども確認でき、職員間で情報の共有を行い、計画書の作成の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するグループホームと合同の避難訓練や花壇の手入れ、散歩などの交流を行っている。施設で出来る事出来ない事を確認しながら一人一人に合った支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の本やWebを利用して、馴染みの場所やお祭りの映像を視聴したりしながら会話も弾み、思い出や楽しみが増やせるような支援に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力医のかかりつけとなっており、月一回の訪問診療を実施している。体調変化時等には適切な指示、助言をしてもらえる体制が出来ており、受診時は同行する職員が詳細な情報を提供して連携強化に取り組んでいる。	協力医による月1回の訪問診療が行われている。体調変化時はクリニックに連絡し状況報告を行い適切な対応が取られている。医師、看護師との協力体制が築かれ適切な医療を受けられる支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時の際は、協力医の看護師へ、連絡相談を行い、スムーズな受診や、医師からの適切な対応と助言を得られる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを利用して情報の提供を行っている。家族や病院関係者から情報を収集し、退院後も病院関係者と連絡を取り合い情報交換を行い、相談できる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に家族同席にて協力医から十分な説明を受け、重度化した際の方針については書面で同意を得ている。終末期に向けては、医師や看護師と連携を図りながら、家族の意向を重視した支援が出来る様に取り組んでいる。	入所時に協力医からの説明が行われている。重度化した場合はその都度話し合いが行われている。終末期には家族も宿泊し対応している。重度化や看取りにおける体制作りが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防機関の講習でAEDを利用した緊急時の初期対応の訓練や、事故発生時の連絡網も作成し連絡体制を整えている。すべての職員で応急手当ができ、隣接する施設との応援体制にも取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて地域の区長・民生委員・消防団・交番の方々との協力確認は得られている。企業全体の緊急連絡網を通じて、緊急時には職員全体で対応できる協力体制づくりに努めている。	停電に備えた発電機の工事が行われていた。地域の区長、消防団、自衛隊OB、警察OBの方々の協力関係も築かれている。地域の方との災害訓練も計画され協力体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した話しかけや、分かりやすく聞き取りやすい言葉で対応し、誇りやプライバシーを損ねる事が無いように十分な配慮を行っている。	言葉遣い、笑顔を重点的に対応している。入浴時やトイレ誘導時の声掛け等にも十分気をつけている。一人ひとりのプライバシーを損ねることがないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴する姿勢で意思疎通を図りながら、本人の希望や意思を感じ取り、自己決定しやすい環境と雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、本人のペースに合わせ、寄り添うことを大切にしながら、日々の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や整容など、個人の好みを優先的に支援し、それぞれに楽しませている。自立困難な方には、一緒になって助言を行い、身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の体調に合わせた食事形態で対応し、盛り付けや配膳の工夫などを行っている。季節ごとの行事食を楽しませ、テーブル拭きやエプロン洗い、コップの片付けなど、職員と一緒にやっている。	食事は食材等にもこだわり自家製の食材も使用され提供されている。状態に併せた食形態となっており自助具等も使用されている。季節食も取り入れ食事を楽しむ支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を細かくチェックし、摂取量が少ない場合は食事形態などを工夫しながら、一人ひとりの健康状態や習慣に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操や合唱等を行い、嚥下障害防止に取り組んでいる。毎食後は、声掛けを行い本人の状態に応じた方法で、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンに応じて定期的な声掛けと誘導を行い、トイレでの排せつの自立に取り組み、おむつの使用を減らす支援につなげている	日中は排泄チェック表を活用し時間にて全員トイレ誘導を行っている。オムツの使用を減らすよう夜間もパットを使用し自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の状況を把握し、水分補給や適度な運動、腹部マッサージなどを実施している。便秘の方には状況に応じて協力医に相談して、指示を仰ぎ予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気持ちや体調面に配慮し、本人のペースに合わせ、拒否があるときは日時を変更するなどしながら、楽しんで入浴できる様に取り組んでいる。	一人ひとりのペースに合わせ週2回の入浴が行われている。体調が優れない方は曜日や清拭等に変更が行われている。季節のゆず湯等も行われ入浴を楽しむ支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に仮眠をとられる方、居室でテレビ視聴される方、ホールで職員と過ごされる方など、その方々に応じた対応を行っている。また、その日の体調に合わせて日中の生活を考えて良眠できる様に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は最新の物をファイルし、変更があった際は全職員に申し送りし、情報の共有に努め、薬の目的や副作用については、必ず理解するように努めている。与薬前には必ず、名前・日付等を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、本人の趣味や楽しみごとが日々の生活の中で活かせる様な取り組みができるように支援し、生きがいや喜びを感じながら過ごせるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩で外気浴を行ったり花壇の花植え以外にも、季節ごとに花見ドライブに出かけて、自宅近くや近隣の名所などに行き、思い出話などで楽しまれている。	日中は散歩に出かけたり外気浴を行っている。花壇の手入れを手伝ってもらったりもしている。季節ごとに紫陽花や桜などの花見やドライブにも出かけるなど取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の出納帳を施設で管理しており、本人の希望があれば必要に応じて職員が代行して購入する場合もある。認知症があり管理は難しくなっており、毎月家族に出納帳の確認をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族連絡先の一覧表を作成しており、連絡を希望される時は直ぐに対応できるようにしている。タブレットを使用してのビデオ通話やSNSでの現況報告には、本人も家族も喜んでいただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に季節の花を飾ったり、入居者の方が行事ごとに作成した作品を展示しており、楽しみながら心地よく穏やかに過ごせる空間づくりに取り組んでいる。	共用空間には手作りの季節ごとの飾りが作成され飾られている。天窗があり明るい空間となっており空気清浄機も稼働し温度、湿度も管理され居心地よく穏やかに過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で自由に過ごせるように共有スペースにはソファが設置してあり利用されている。テーブル席は定期的に入れ替えを行い、誰とでも会話が楽しめる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごされていた時のように、使い慣れた物や家族写真などを飾り、本人が居心地がよく、過ごしやすいうように常に工夫している。	居室はクローゼットが広くきれいに整理されている。家族の写真や持ち込みの人形などが飾られテレビを視聴するなどそれぞれが居心地よく過ごせる工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーになっており、車いすもスムーズに移動でき、各所に手すりが設置され自立した生活が送れるように環境に工夫をしている。		